

生 活

教科

生活 01

感謝の気持ちを伝えよう

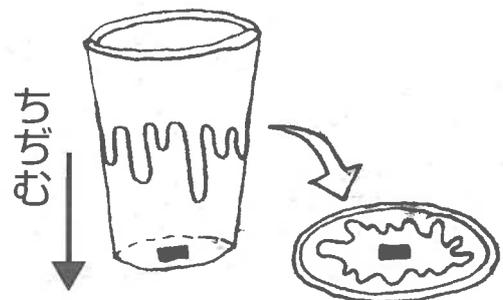
対象人数	1人以上
所要時間	30～90分
準備するもの	プラ板、透明なプラコップ、油性マジック、オーブントースター、ひも
ねらい・効果	家庭生活を支えている家族のことを考え自分にできることを実現していく

《活動》

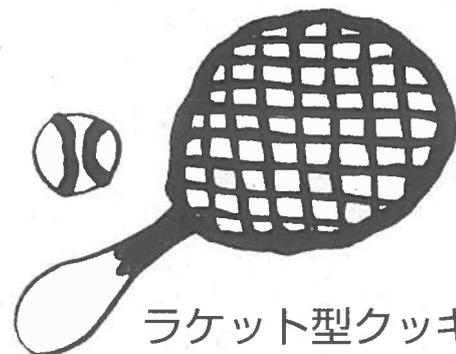
1. 家族の喜びそうなものを思い浮かべ、デザインを考える。
2. プラ板に絵を描き、好きな形に切る。
3. 穴を開けてオーブントースターで焼く。
4. ひもを通す。
5. お手紙やカードを書く。
6. 後片付けをする。

※プラ板を切るのは、小学生には難しい部分もある。プラスチック製のコップ（スーパーなどで10個250円程度 完全に透明なもの）を使うと、焼いた時に丸い形になり、切る手間は省ける。ただし、縮んだらすぐに重石で形を整えなければ、なみをうった状態になるのが難点。

※材料費を集めて、家族の好きな形に工夫したクッキーを作ることできる。



テニスのすきなお母さんに



ラケット型クッキー

《発展・応用》

※母の日、父の日などの前に行うと効果的である。

※「家族の仕事あてまSHOW」などのプランと併用し、「家庭生活を支えている家族のために」という目的意識をもたせることもできる。

教 科

生活 02

花を育てよう

対 象 人 数	1人以上
所 要 時 間	3ヶ月～
準 備 す る も の	花の種(マリーゴールド ペチュニアなど)、プランター、土、画用紙、ピッチン(ラミネート)、電話帳、なべ、タオル(ガーゼ)、シリカゲル(乾燥剤)、茶筒
ね ら い ・ 効 果	植物の生長に関心をもち、親しみをもってお世話をする。草花を使った活動を楽しむ。

《活動》

1. 花の種を選び、植える。育てる。長期にわたる活動になるので、水やり当番や観察記録、開花予想など生長を楽しむ工夫をしていく。
2. 花が咲き始めたら、以下の活動を選んで行っていく。

①押し花

- 花を丁寧に開いて電話帳などにはさむ。
- 水分がなくなるまで、何日か置きにはさんでいる場所を移して乾燥させる。
- 画用紙に配置し、ピッチンなどで覆いをつけてしおりを作る。

②染め物

- 花を集めて天日で乾かす(マリーゴールドは、花を摘むほど株が広がりたくさんの花をつける)。
- ボウルやなべで煮出し、染める液を作る。
- 染めたいものを入れる。
- 色を安定させるために次のものを媒染剤に入れる。
鉄…渋い緑色に
アルミ…染液そのままの黄色に
チタン…オレンジ色に
- 陰干しをして完成

③ドライフラワー

- 日陰の湿度の低い所に、花を逆さにつるしておく。
- 2週間で完成。

【もう一つの方法】

- 茶筒に花の形を崩さないように入れ、シリカゲルで花を埋める。
- ふたをして1週間で完成。

教科

生活 03

アイスクヤンドルを作ろう

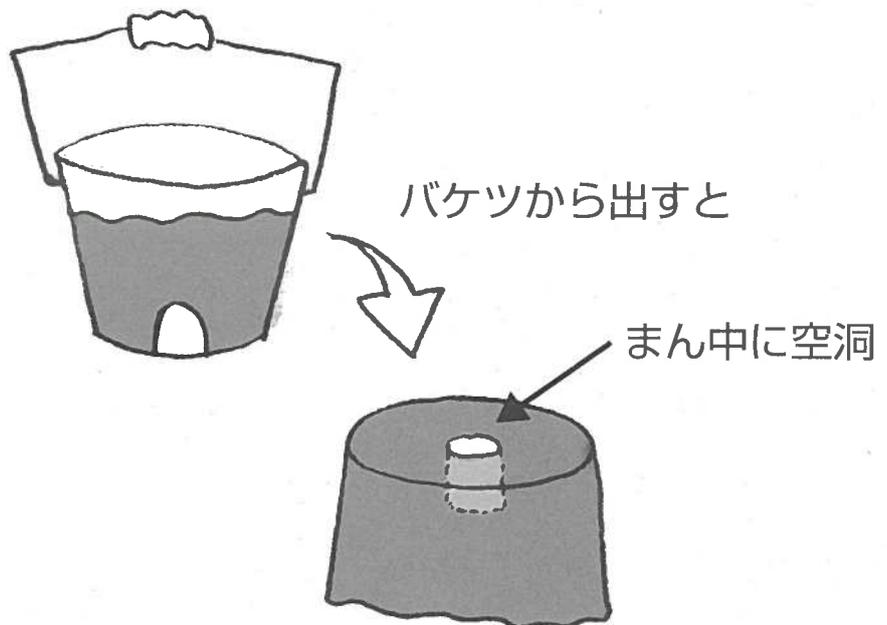
対象人数	1人以上
所要時間	一昼夜
準備するもの	スノーウェア、水、シャベル、バケツ、ろうそく、落ち葉・絵の具など
ねらい・効果	冬の暮らしを楽しむ

《活動》

1. バケツに水をはり、日陰に置く。落ち葉やななかまどの実などを入れて凍らせる事もできる。また絵の具を入れると、色つきの氷になる。
2. 翌日、バケツから出し、ろうそくを灯してかざる。

※何日も置いておくと、氷の塊となりランプシェードとなるように削るのが低学年には難しくなる。1日で図のような形に凍るので、1・2年生にはお勧め。

※ただし、かなり冷え込む日でなければ、凍ってくれません。



《発展・応用》

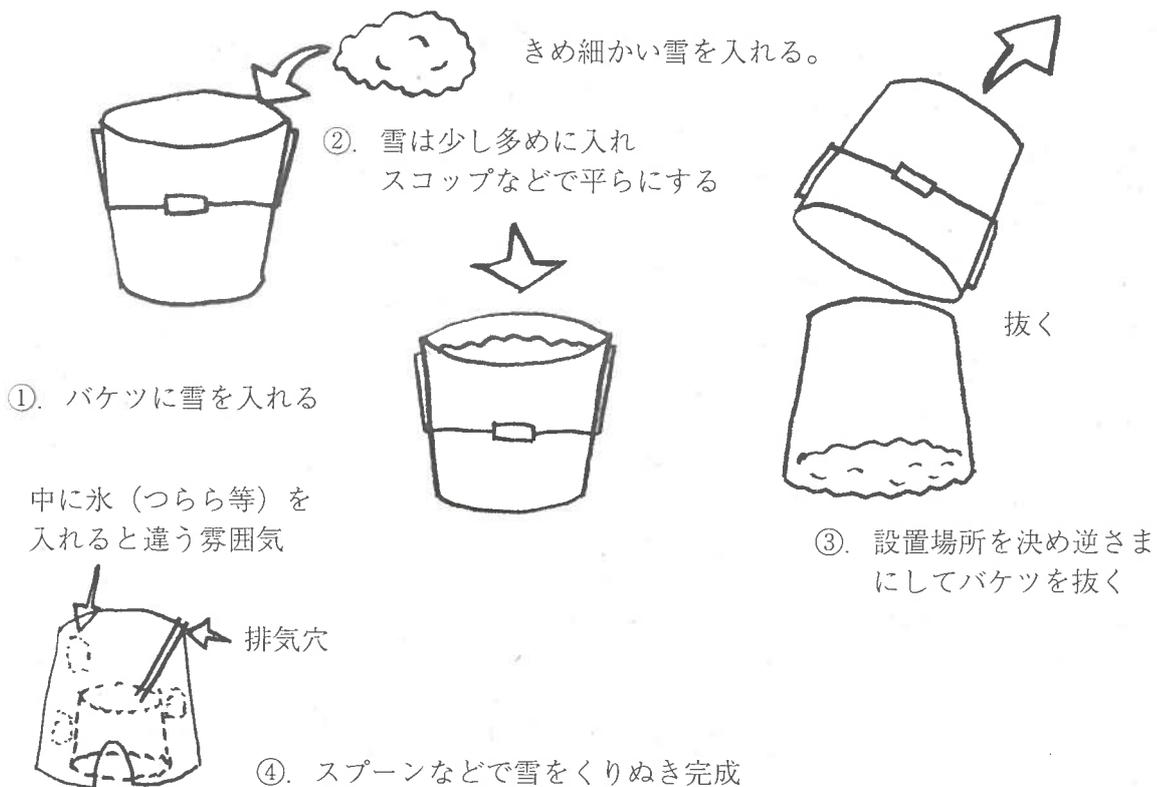
68～75ページに掲載した(財)札幌市青少年女性活動協会作成の資料を御覧いただければ、さらに多くの作り方が分ります。

スノー&アイスキャンドル 大作戦!

1. スノーキャンドル

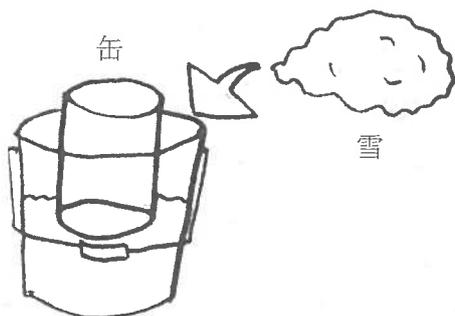
スノー&アイスキャンドルとは、氷で作ったランプシェードのことで、
中にろうソクを灯し北国ならではの幻想的な世界を楽しむ事ができる。

(1) バケツを使用したスノーキャンドル



- * 肉厚を薄くするとほんのりとした灯りがドーム全体を覆う
- * 雪は必ずきめの細かいものを使い、固まりを取ることに!
- * 湿気が多い雪の場合は入口を大きく取り入口から洩れる灯りを正面に向ける。
- * 粉雪を圧縮しすぎるとろうソクの光が通過せず暗くなる

~裏技~



- * バケツに雪を2/3の深さに敷き詰め、空洞を作るあたりに円筒の筒を入れ回りに雪を詰める。
逆さまにしてバケツを抜くと中に空洞ができ入り口を削るとできあがる。先にろうソクを点灯した状態でかぶせると入り口のないキャンドルができる。
- * ろうソクはベニアや、ダンボールを正方形に切ったものに釘を打ったもので固定すると良い。

つくり置きは水雪
でつくとよい



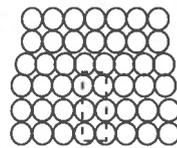
(2) 雪玉を使用したスノーキャンドル

- ①. 設置場所を決めろうソク立てを置く。

上から見た図



横から見た図



- ②. サークル状に雪玉を並べる。2段3段と積み重ねろうソクの炎が隠れるくらいを目安に積み重ねる。(炎が雪玉の壁を越えるときれいに見えない) 雪玉の隙間から見える灯りがとてもきれい!

～注意事項～

- *雪玉と雪玉の間から見え隠れする光がきれいなので、隙間を埋めたりしない。
- *雪玉の大きさをそろえた方がきれい。

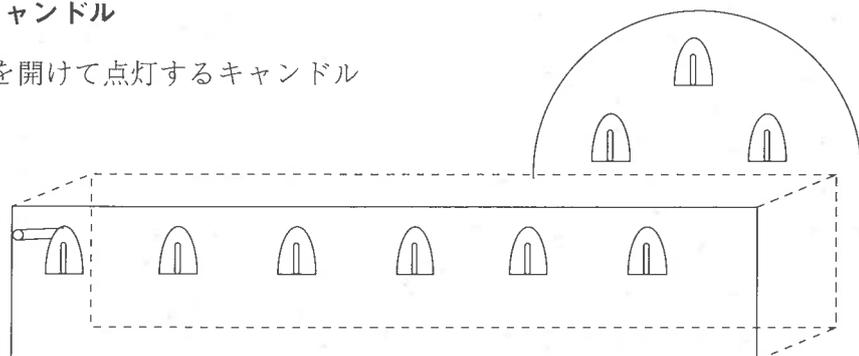
～裏技～

- *前日に作り置きする場合、水雪で雪玉を作ると不透明な氷となり雪玉とは少し違った趣になる。
- *大量に作る場合、雪玉製造器を使って…反則技?

(3) その他のスノーキャンドル

- *雪山や、雪壁に穴を開けて点灯するキャンドル

排気穴を横に出し
氷のふたをする



*雪板キャンドル

寒暖を繰り返した雪原は、表面が堅くなった場所があります。上手に切り出して暖炉のうように囲むとできあがり。

2. ア이스キャンドル

(1) 氷を知る

* 私たちが一般に水といっているものは、水道水やミネラルウォーター等ですが、この水のなかには、マグネシウム、カルシウム等のミネラルや、鉄や銅などの金属イオン、塩素、窒素ガスイオン等様々なものが溶け込んでいます。

また、炭酸や空気といったものも目に見えない状態で溶け込んでいます。

美味しい水の条件は、炭酸とミネラルの溶け込んでいる量によって決まってきますが氷にとってはそれが不純物となってしまいます。

そして、水が氷に変化していくときには、純粋な水（ H_2O ）から凍っていくという性質を持っています。

つまり純粋な水の部分は透明になり、最後に残った水に溶け込んでいた様々なイオン達が凍った部分が白く濁って見えるのです。

容器に入れた水を冷凍庫に入れると、水は上下左右全体の外側から冷やされていきます。このとき水は、まず純粋な水の成分から凍っていき、その他の成分は中へ中へと押しやられていきます。そして、真ん中に閉じ込められると最後に行き場がなくなり白く凍ります。

* 透明な氷を作る条件

基本的に氷柱（つらら）をお手本にすると良いでしょう。つららはご存知のように透明で堅くとてもきれいです。なぜ冷凍庫では白く濁った氷ができ氷柱は堅いきれいな氷ができるのでしょうか。

- ① つららは軒先などに良くできますが、屋根などの雪が解けてできた水が流れながら凍ってゆきます。流れることによって中にとけ込んでいる空気等を追い出して純粋な水だけが凍ります。（条件① 水を動かせる、流速）
- ② 氷柱は気温が比較的高いとき $-10^{\circ}C$ 位でゆっくりと時間をかけて凍ります。（条件② ゆっくりと凍らせる）
- ③ 氷柱とは関係ありませんが、できるだけ純粋な水を使う（条件③ 純粋な水を使う、蒸留水）

* 冷凍庫で透明な氷を作る

透明な氷を作る条件①から③を満たすと透明な氷が出来るわけですが、家庭の冷凍庫や児童会館（複合館）にある大型の冷凍庫でも条件①がクリアできません。

最新の冷凍設備では振動型の庫内が備えついているものもありますが…

そこで、不純物を一定の方向に追いやる方法を使います。

実験. 紙コップの横面に断熱材（割れ物を包むときに使うようなもの）を巻きます。
蒸留水を一度沸騰させて空気を抜いた湯冷ましを揺らさず静かにコップに注ぎます
（ビールをつぐようにして空気が混ざるのを防ぐ）。

次に上面も断熱材で蓋をします（下面はそのまま）。

冷凍庫の温度は、最高に高く（温かく）してゆっくり凍らせませす。

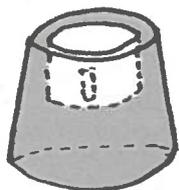
完全に透明な氷はできませんが、比較的透明な氷ができるはずですよ。

紙コップに何も断熱せず通常の庫温で凍らした場合と比較してください。

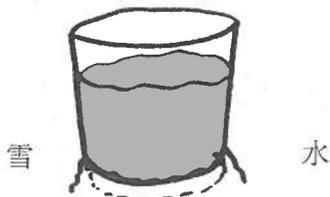
断熱せず通常の庫温で凍らした場合は氷全体が白っぽくなります。これは、庫内温度が
-18℃前後あり不純物が追いやられることなく一緒に凍ってしまうためです。また、同じ条
件で作った、白くなるはずの氷が中央だけ白い場合は比較的庫温が温かいと判断できます
（霜がついていませんか？冷風の吹き出し口が物で隠れていませんか？）。

なぜ透明な氷の作り方を説明したかと言いますと。皆さんに工夫をして頂きたいためです。
外でバケツに水を張り凍らせるときに、ちょっとした工夫がよりキレイなアイスキャンドル
で、地域の方に喜んで頂けるのではないかと考えたためです。

(2) アイスキャンドルを作る



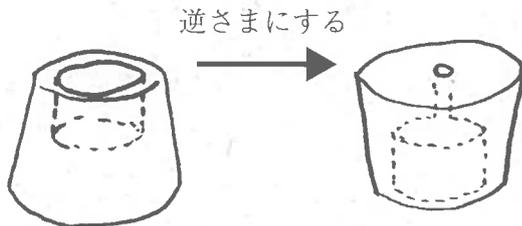
← 型アイスキャンドル



- ①. バケツに水を張り雪の上に置く。
その際、そこの回りを少し雪で覆う
（その部分が雪で保温され底の氷が一番最後に凍る）
- ②. -14度程度の場合一晩で図のように凍ります。
このようになれば（経験でわかります）、バケツを逆さまに
して、水又はぬるま湯をかけてバケツを抜きます。
- ③. 上部の薄氷を割り、中の水を抜きます。
凍らせすぎて穴が小さい場合はぬるま湯を入れると広がります。
- ④. ろうそくを入れて出来上がり。

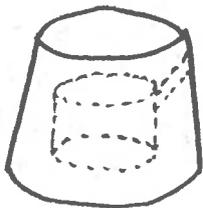
逆バージョン

ドリル、キリなどで排気穴を作る

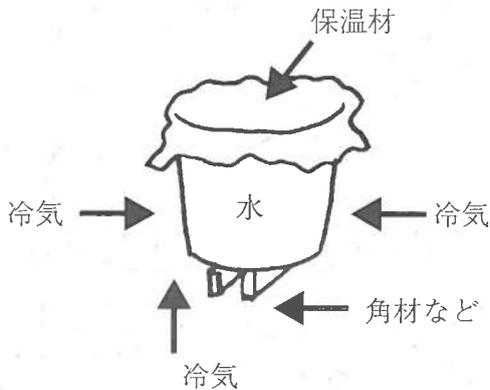


空気穴、隙間を作る

- *逆さまにし、ドリル（木、鉄工用の刃）キリなどで排気用の穴をあける。
- *穴の位置を置く場所に応じて工夫しよう！

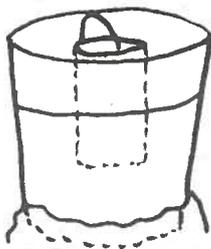


型の作り方



- ①. 先に説明したキャンドルは、底を雪で保温したが、ここでは上部を保温し凍らせる。角材などで底上げをし、底からも凍る様にする保温材の効果により水のたまる部分が上部に移る。
- ②. 先に説明した作り方②～④を参照

～裏技～



おもりを入れた缶を水の入ったバケツにつるす。
*空洞ができていく。氷になるのが早い。
*凍らせすぎてもバケツを破損する危険が少ない。

*全部凍ってしまった場合は、中央に

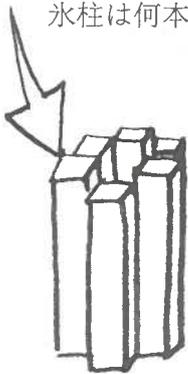
- ①. 空き缶を置き熱湯を入れる
 - ②. ドリルで穴を作りぬるま湯を入れる。
- *水の温度に気をつけないと割れます。

～裏技～

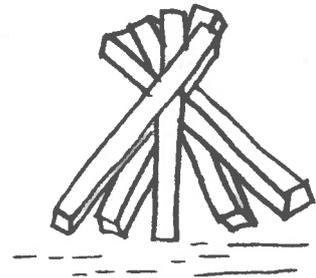
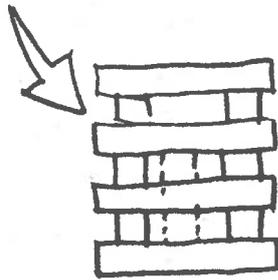
- *色で遊ぶ。食紅などで薄く色を付けた水を凍らせると、ちょっと違ったキャンドルができます。
- *缶をつったように花や木の葉、セロハンなどをつり凍らせる。

(3). 牛乳パックで作るキャンドル

- ① 1リットルの牛乳パックに水を入れて凍らした氷柱6本をサークル状に立てて並べる
(キャンプファイヤーのインディアン式に並べてもでも良い)。
氷柱は何本使用しても良い

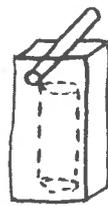
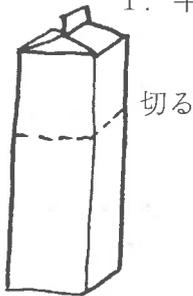


- ② 氷柱を井桁状に並べる (キャンプファイヤーのように)。



- ③ 牛乳パック1本で作るアイスクャンドル

1. 牛乳パックを適当な長さに切り取る。



2. 切り取ったパックに水を入れ

缶を入れて凍らせる。

(底にエッジのないものを選ぶ)

エッジ

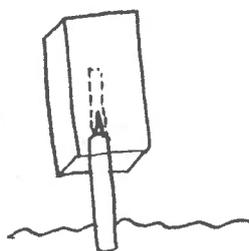


凍った後抜けなくなる

*このキャンドルは、手軽に作れ、家庭用の冷凍庫などでも簡単に作ることができます。もちろん缶を入れずに水を抜く方法でも出来ます。

- ④ 牛乳パック1本と棒で作るアイスクャンドル

*図のように先端にロウソク刺しを取り付けた棒を入れて凍結させる



凍ったキャンドルを雪面に刺し一風変わった
灯籠型キャンドル。

(4) その他のアイスクャンドル

① 風船、ペットボトル、マヨネーズの容器などを利用する

水を入れたゴム風船を雪で丸く型を作った中に二晩程度静置して凍らせる。
できあがった氷を組み合わせ、いろいろな形を作って中にろうそくを立ててみます。

*いろいろな形の風船を利用！

ウサギの形や、マジックバルーンなどを使う。雪で風船の型を作り曲面ができるように凍らせる。

ゴム手袋で手の形をした氷や、ゴム靴などでも簡単に出来る。

(ただしゴム手袋も長靴も再利用できないところが難点。)

*氷に穴をあける方法

ドリルで穴を作りぬるま湯を入れる。

細いドリルの刃で穴をあけておき太刃で大きな穴を作り、その中にお湯を入れては出す。を繰り返します。

*太刃で直接あけると割れる危険があります。

*氷の温度によっては水で割れることがあります。

② 様々な対象物に水をかけて凍らせる。

ツタ、網など(何でも良い)を希望する造形に変化させ、水を噴霧して凍らせます。ロウソクの炎で透明な氷の下に素材が見え、幻想的に映し出します。

*ここで紹介した作り方は、ほんの一例でありこれを基に、みなさんも様々なアイデアでチャレンジしてください。

(5) キャンドルの台座、並べ方を工夫しよう

苦勞をして作ったキャンドルも、無造作に置いて点灯しても魅力が半減してしまいます。また、通路や歩道などに並べる場合でも、曲がっていたり、間隔が狂うとこれも魅力が半減してしまいます。そこで上手に並べる方法を説明します。

① 真っ直ぐ、等間隔で並べる。



- * 2本の杭を打ち（雪に棒をさす程度）それに糸（紐）を張り、これに併せて並べると、高さの狂い、曲がりを防げます。また、等間隔になるようにテープなどを使ってあらかじめ等間隔に印を付けるとさらに綺麗に設置することが出来ます。
- * 小樽のアイスキャンドルでは、アイスキャンドルの上に小さな雪だるまがのっており、非常にかわいかったです。ちょっとした工夫をすればオシャレに、かわいく変化します。

② 台座を作る。

コンテナに雪を詰め込み、逆さまにして抜くと雪のブロックが出来ます。

使うコンテナは、内面に凹凸が少ない物を利用します。

粉雪の場合は、水雪にして詰めると堅いブロックが出来ます。

- * コンテナ以外の様々な物で試してください。
- * 三角コーンで型を作る
- * 前にも説明しましたが、ロウソクはベニアや、ダンボールを正方形に切ったものに釘を打ったもので固定すると良いと思います。

後かたづけを忘れずに！



教科

生活 04

名刺ゲットゲーム

対象人数	5人以上
所要時間	1～2時間（時期：4月）
準備するもの	画用紙
ねらい・効果	同学年・異学年の交流ができると同時に、お互いの名前や特技などを知ることができる

1. 名刺サイズに切った画用紙に、名前・似顔絵・特技を書き込む。
※実施時間・人数によって枚数を工夫する。5枚以上は必要。1年生は文字が書けないことも予想されるので、名前以外は選択肢を作っておいても良い。
2. できた名刺をもち、制限時間を設けて名刺ゲットゲームを実施。
実施前にルールを確認する。

【ルール】

- 同じ学年の子どもの名刺は1ポイント
- 違う学年の子どもの名刺は2ポイント
- 名刺を交換する時には必ず自分の名前を名乗る。
- お互いに自己紹介した後に、名刺を交換したら握手をする。

3. 時間が来たらポイントを数えて勝敗を決める。

1ねん

さっぼろ たろう



とくいなこと

うたをうたうこと

すきなたべもの

ハンバーガー

《発展・応用》

参加人数に合わせて、名刺の数を増やして行う。増やす場合、名刺製作に時間がかかるので、交換する場を別の日に設定することで、どの子どもも自分の名刺にこだわりをもって作る時間を保証される。

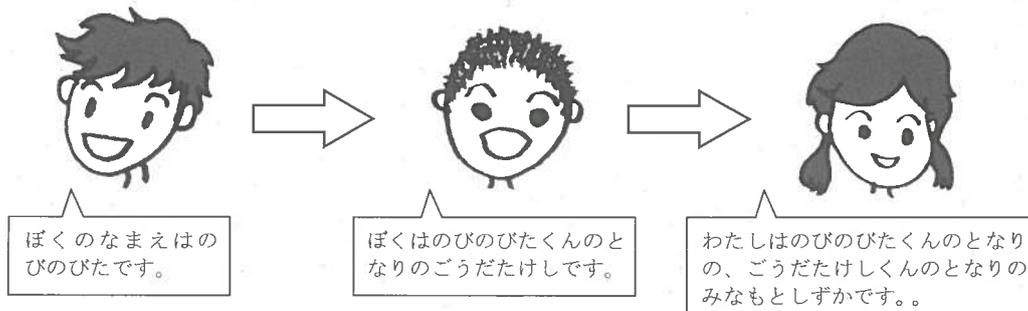
教科

生活 05

自己紹介ゲーム

対象人数	8人以上
所要時間	1時間（時期：4月）
準備するもの	ストップウォッチ
ねらい・効果	同学年・異学年の交流ができる

- 5人程度のグループをいくつか作る。
- グループ内で自己紹介をする。
- ゲームのルールを伝える。
 - 1人が自分の名前を言う。
 - 次の人は前の人の名前を言った後に自分の名前を言う。
 - その次の人は自分の前の人とその前の人の名前を言った後に自分の名前を言う。
 - このように最後の人が名前を言い終わるまでのタイムを競う。



- 作戦タイムをとる。
タイムを縮めるために、誰を何番目にするかを話し合う。
- 練習タイムをとる。
練習の中で何度も名前を言うことで、お互いの名前を覚えることができる。
また、異学年の交流が生まれる。
- 実際にタイムを計って勝敗を決める。

《発展・応用》

名前だけの自己紹介だけでなく、「あやとりがとくいなのびのびたです。」→「あやとりがとくいなのびのびたくんのとりの、うたがとくいなごうだたけしです。」など、得意なこと、好きな食べ物などをつけることもできる。

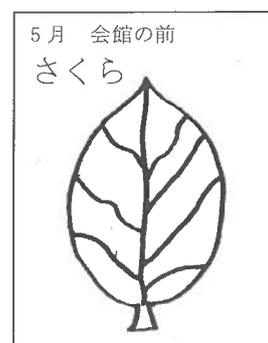
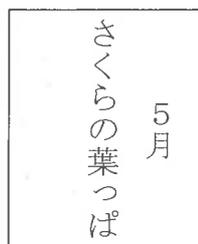
教科

生活 06

植物カルタを作ろう(春バージョン・秋バージョン)

対象人数	2人以上
所要時間	3時間(時期:春バージョン 5・6月、秋バージョン 10・11月)
準備するもの	地域の植物、画用紙、ラミネートマシン、図鑑、厚い本
ねらい・効果	身近な自然物の名前を知り、季節の変化に気付く

1. 施設の周りの花や葉を集めに行く。
2. 電話帳や厚手の本にはさみ数日置く。
3. 見つけた植物の名前を調べる。
4. 花や葉を台紙にはり、名前、取った場所、採った日付を書き込み、ラミネートをかける。
5. 読み札を作る。
6. 作ったもので遊ぶ。



※春バージョンと秋バージョンを混ぜて使うことで季節によって同じ植物が変化していることに気付くことができる。



《発展・応用》

全員で遊ぶことを考えると、作ったカードで「神経衰弱」のルールで遊ぶこともできる。

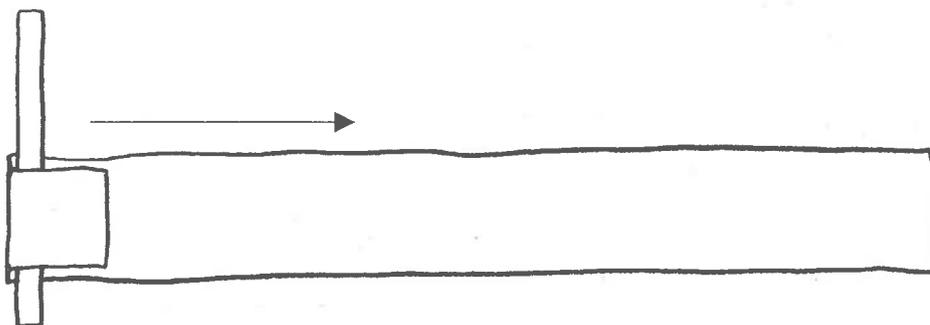
教科

生活 07

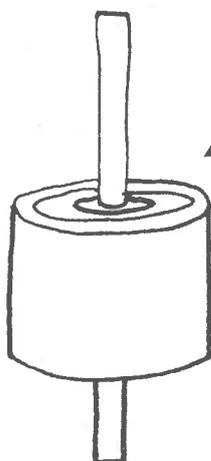
てづくりコマ大会

対象人数	2人以上
所要時間	1時間
準備するもの	色画用紙(紙テープでも可)、爪楊枝
ねらい・効果	身近なものを使って遊びを工夫し、大会を開くことで人と関わる力を付けることができる

1. コマを作る



1.5センチメートル幅に切った色画用紙を、爪楊枝の先端を5ミリ程度出した場所にセロハンテープで固定し、きつく巻いていく。巻ききったらセロハンテープで止め、巻いたものの直径が2センチ程度になるまで、紙を付け足して巻いていく。



紙の色を変えると回った時に美しい

2. コマ回し大会をひらく

- 一番長く回るのは誰かを競う。
- コマ同士をケンカさせて強さを競う。
- 大きさ別勝負(ヘビー級・ミドル級・ライト級)

《発展・応用》

- ・紙を巻く作業が低学年には難しい場合があるので、コマ作り道場などと名づけて、高学年が低学年を指導することで、異学年の交流を図ることもできる。
- ・紙テープはやわらかく、切る手間も必要ないため、活用しやすい。

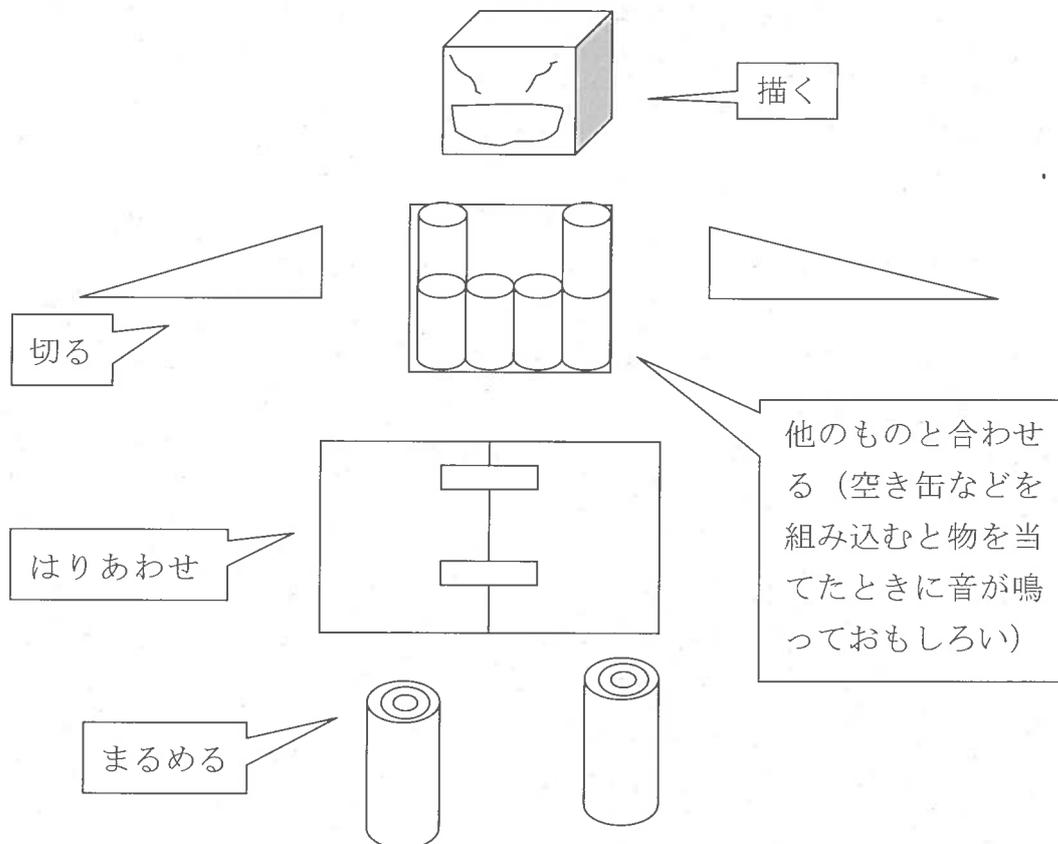
教科

生活 08

巨大ロボをつくろう

対象人数	5人以上
所要時間	1～2時間
準備するもの	ダンボール、ガムテープ、サインペンなど
ねらい・効果	身の回りのものを使って大きなロボを作り、楽しむことができる

- いくつかのグループを作り、どんな形にするかを相談する。
※目的（豆まき・お化けなど）を明確にすることで、子どもがロボの形を考えやすい。
- 集めてきたダンボールを使ってロボを作る。



- 完成したものを的にして、ものをぶつけて遊ぶ。

《発展・応用》

実施時期により、活動の目的が異なる。2月であれば、鬼を作って、豆をぶつける。それ以外であれば、ストラックアウトのイメージでロボを作らせることで、ロボの形も変わっていく。

教科

生活 09

新聞紙ファッションショー

対象人数	5人以上
所要時間	2時間
準備するもの	新聞紙、ガムテープ、セロテープ
ねらい・効果	身の回りにある新聞紙を使って服を作り楽しむことができる

1. いくつかのグループを作りモデルを1人決める。
2. 制限時間を決めて製作を始める。



3. みんなで見合う



エントリーNO. 3

おしゃれ度	☆☆☆
面白い度	☆☆☆
おどろき度	☆☆☆
工夫度	☆☆☆
上手度	☆☆☆

コンテスト形式にしてもおもしろい

《発展・応用》
 作った服を使ってお店屋さんごっこをすることで、たくさんの学年の子どもが関わる場を作ることができる。

教科	生活 10
----	-------

児童会館版 思い出すごろく

対象人数	5人以上
所要時間	1～2時間
準備するもの	画用紙、模造紙、のり、さいころ
ねらい・効果	1年間の自分の成長に気づくことができる

1. 5センチの正方形のカードにこの1年間の自分の思い出ベスト5を書く。

日付や時期を入
れると時系
列に並べ
やすい。

4月
のびたくんとかよしにな
れたよ。ひとますすすむ。



5枚の中から「進むコマ」
「休むコマ」を決める

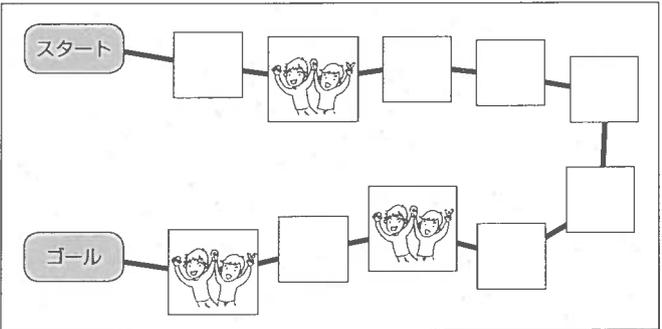
「○マス進む」「○回休
み」はマス数や回数に上
限を決めておくとよい。

4月 家にかえるとちゅうにま
いごにな
る。いっか
いやすみ。



2. グループごとに模造紙の上にカードを配置し、
のり付けをする。時系列をそろえられるように
声をかけていく。

3. 完成したらすごろくをしてあそぶ。



《発展・応用》

低学年の場合、カードが5センチ四方では小さいので、実態に応じて紙のサイズを変える必要
がある。

教科

生活 11

家庭の仕事あてま SHOW

対象人数	5人以上
所要時間	1時間
準備するもの	A4程度の大きさの紙(裏紙でも可)、マジック
ねらい・効果	家庭生活に関心をもち、生活を支えている家族の事や自分で出来る事などについて考える

《準備》(～15分)

- 家庭内で行われている仕事を個人で紙に書き出す。
 - ・より具体的に書く(掃除⇒風呂掃除、ふき掃除⇒窓拭き、など)ように声をかける。
- 自分で書き出したものからいくつかを選び、1枚の紙に1つの仕事をマジックで書く。
 - ・1人1枚以上。重なる場合もあるので1人2～3枚書いてもよい。
 - ・1人1人がどんな仕事を書いたのかを秘密にしておくほうが、ゲームの要素が高まる。
- 出されたものをシャッフルし、指導員が児童の背中に1枚ずつ貼る。

《活動》

【Aプラン】(時間を決めて全員で一斉に活動する)

1. 相手を見つけ、自分の背中に貼ってある仕事をあてるための質問をする。「家の中でやる仕事ですか?」「毎日やりますか?」など
2. 相手の質問にも答えてあげる。
3. 参加人数にもよるが、なるべくたくさんの人と交流できるよう、質問は1人に対して1つにする。また、「はい」「いいえ」で答えられるような質問を考えるようにすると「考える」「表現する」力を高めることにもつながる。
4. 時間になったら終了。答えのわかった子どもは、みんなに背中を見せながら発表する。また、わからなかった子どもは、みんなからヒントをもらいその場で考える。自分の背中に貼られた仕事について、お手伝いをしている、やったことがあるなどのコメントを発表させることもできる。
5. 繰り返す。

【Bプラン】(1人ずつ出てきてみんなからヒントをもらう)

1. 1人がみんなの前に出て、背中中の答えを見せる。
2. みんなからヒントをもらう。「大きな道具を使う仕事だよ」「私は毎日やっている仕事です」など場合によってはジェスチャーもありうる。
3. 答えがわかったら発表する。
4. 交替する。

教科

生活 12

家庭のお仕事バトル

対象人数	2人以上
所要時間	40分
準備するもの	1人分：画用紙（A4を4等分又は8ツ切りを8等分）×5
ねらい・効果	家庭生活に関心をもち、生活を支えている家族の事や自分でできることなどについて考える

《準備》（～20分）

- 家庭内の仕事（両親が行っているもの、自分が手伝っているものなど）を思い出し紙に書き出していく。
- 仕事の難易度をポイントにして表し、絵や文を書き込んで5種類のカードを準備する（簡単な順に 10P 20P 50P 80P 100P）。
 - ・同じ仕事であっても、評価ポイントには個人差が表れる。自分のカードを自分で使う場合には、その差があっても面白い（例えば同じ茶碗洗いでも2年生と6年生ではポイントが違って当たり前である）。

《活動》

【Aプラン】（1対1でたたかう）

1. 順次1枚ずつカードを出し、ポイントの高いカードを出した人が相手のカードもゲットする。
2. 合計枚数の多いほうが勝ち。
3. 相手をかえてたたかう。

【Bプラン】（複数でたたかう）

1. 順次1枚ずつカードを出し、ポイントの高いカードを出した人が相手のカードをゲットする。
2. 同じポイントの時には、より難易度の高い内容の仕事の方が勝ち（高学年有利。しかし、これを決めるのはその場での話し合いによる。本当のバトルにならないよう注意する）。また、同じ仕事であっても、ポイントの高い方が勝ちとなる（低学年有利）。
3. 合計枚数の多い方が勝ち。

【オプションプラン】（複数でたたかう）

1. 全員のカードを集めてシャッフルし、全員に配る。
2. 順次1枚ずつカードを出し、ポイントの高いカードを出した人が勝ち、すべてのカードをゲットできる。自分で出したカードの仕事を家庭内において常に自分がやっている場合には、ポイントが2倍になる。
3. 合計枚数の多い方が勝ち。

教 科

生活 13

地域お宝マップ

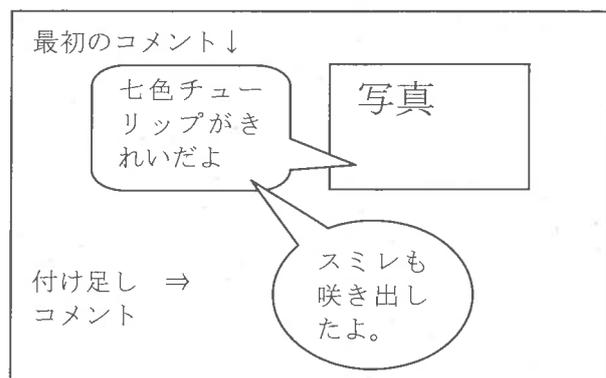
対 象 人 数	4人以上
所 要 時 間	1時間30分～
準 備 す る も の	デジタルカメラ、地域の地図、模造紙（会館周りの地図を描く）、マジック
ね ら い ・ 効 果	自分たちの住む町、地域のことを知り、地域への愛着をもつとともに、児童会館からの登下校時の危険箇所などのチェックができる

《事前準備》

- 常掲マップにしあげるなら…
模造紙（カレンダーやポスターの裏でも可）に児童会館周りの地図を描いておく。探検時に児童に持たせるために、同じものを縮小しておく。
- グループ対抗でお宝探しゲームをするなら…
B4程度の紙に方面別の地図を描いておく（2～4コース）。

《活動》

1. グループを作り、方面別に分かれて地域を散策しながら、地域の『お宝』となる「素敵な場所」「面白いもの」などを探す。見つけたもの（こと・人）を写真に写す。
 - ・館外活動になるため、1度に2コース以上の付き添いが難しい場合には、時間差をつける、日にちをずらすなどの工夫が必要である。デジタルカメラの個数にもよる。
 - ・途中、危険箇所を確認したり、子ども110番の家を確認したりする事もできる。
 - ・低学年が中心の場合は途中の公園での遊びを取り入れながら行うこともできる。
 - ・グループ作りは、低中高がバランスよく入っていると、上の学年から下の学年への指導やお手本が伝わりやすい。
2. 会館にもどり、写真を地図に貼りつけ、コメント、発見者名もつける。
⇒ 常掲マップであれば、これらを繰り返し徐々に完成させていくようにする。
3. コースマップを交換し、他のグループが見つけた地域の『お宝』を探しに行く。見つけたら、さらに自分たちのコメントを付け足していく。



教科

生活 14

雪像コンテストをしよう

対象人数	8人以上
所要時間	2時間（立方体作り30分・相談20分・雪像作り60分・表彰10分）
準備するもの	スノーウェア、スコップ、シャベル、バケツ、板又はダンボール
ねらい・効果	冬の暮らしを楽しむ。異学年との交流を通して遊びのアイテムを増やしていく

《準備》

- ※1グループは4人以上、コンテストなので2グループを想定しているが、人数が少ない場合には「雪像作り」とすることもできる。
- グループを作り、グループごとに板やダンボールで囲いを作り、1m四方の立方体を作っておく。（なるべく前日のうちに作っておくことが望ましい）
 - グループごとに何を作るかを相談する。

《活動》

1. 事前に作っておいた立方体を削ったり、雪を付け足したりしながら雪像を作る。
2. 当日～翌日までの間に来館者などに投票してもらう。
3. 作品の写真とともに投票結果を掲示し、表彰する。

《オプションプラン》

- 1週間ほどの期間を「スノーフェスティバルウィーク」として、毎日様々なイベントを組むことができる（アイスクャンデー、アイスクャンドルは、夜の冷え込みが厳しくなる時期が望ましい。そのため2月上～中旬に行うのがよい）。
- いずれも異学年同士のグループ対抗で行うことで、子ども同士の交流やリーダー育成、遊び文化の伝承につながると考える。

★イベント例

- ・雪中サッカー大会 ・砦作り⇒雪合戦 ・雪だるま作り競争（タイムトライアル）
- ・アイスクャンデー作り（紙コップなどにジュースを入れ、割り箸を立てて一晩置く）
- ・アイスクャンドル、スノーキャンドル作り⇒点火式 ・グループで雪像作り